

# 令和5年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【本太中学校】

⑥ 次年度への課題と改善策	
知識・技能	学校全体としては、引き続き、「知識・技能」の定着は図れている。しかしながら、一定数の生徒は、基礎的・基本的な知識・技能の定着に課題がみられることから、今後も「スタディサプリ」や「ドリルパーク」などの活用を促し、個別最適な学習を支援していく。また、次年度は、学校課題研究と関連付け、UDLや個別最適な学びを充実させ、知識・技能の確実な定着を図れるようにしていく。
思考・判断・表現	調査結果からは、「思考・判断・表現」についても、一定の成果が伺える。本校の生徒は、課題について、自ら考え、自分なりに表現する力はある程度身に付いていると思われる。ただし、発表する力となると課題がみられることから、引き続き、学習の基盤となる資質・能力における言語能力の育成に重点を置き、自分の考えを表現し、それを発表し、人に伝える力の育成を目指していく。
主体的に学習に取り組む態度	「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか。」の項目において、肯定的な回答をどの学年も90%以上を目指す。主体的に学習に取り組む態度の育成を目指し、興味関心を高めるため課題を自ら設定する、自分の考えを表現する、学習の振り返りをするとした活動の充実を図っていく。

① 目標・策		
	目標	策
知識・技能	令和5年度全国学力・学習状況調査における、国語・数学・英語の「知識・技能」の正答率について、市の平均を上回る。	⇒ 「スタディサプリ」や「ドリルパーク」等を活用し、基礎的・基本的な事項の定着を目指し、個の定着度に応じた反復練習に取り組ませる。その際、生徒の学習履歴等に基づき、適時アドバイスを送り、朝の学習や家庭学習を活用した取り組みを行う。
思考・判断・表現	令和5年度全国学力・学習状況調査における、国語・数学・英語の「思考・判断・表現」の正答率について、市の平均を上回る。	⇒ 「言語能力」を育成するため、国語科を中心に作成した「自己表現マニュアル」を全教科で共有し、自分の考えを表現し、発表する際に活用する。発表の際には、マニュアルに基づいた指導を行い、より伝わりやすい発表に向けて、評価・改善を促す。
主体的に学習に取り組む態度	令和5年度全国学力・学習状況調査における、「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問項目において、肯定的な回答の割合を90%以上に上げる。	⇒ 全ての教科において、実社会に結びつく課題設定の工夫をする。そして、授業での知識の習得にとどまらず、学んだ知識が実社会でどのように活用されているのかを意識できるように「STEAMS TIME」で学習テーマを設定する。

⑤ 目標・策の達成状況		評価(※)
知識・技能	全国学力・学習状況調査及びさいたま市学習状況調査において、各教科とも「知識・技能」の平均正答率が、市の平均を上回ることができた。長期休業期間において、「スタディ・サプリ」で宿題を出すことが定着しており、今後も継続していく。	A
思考・判断・表現	全国学力・学習状況調査及びさいたま市学習状況調査において、各教科とも「知識・技能」の平均正答率が、市の平均を上回ることができた。国語科を中心に作成した「自己表現マニュアル」の活用は、おおよそできた。教科によっては、使いづらい部分もあったが、今後も教育活動全般で活用し、自分の考えを表現し、発表する力を育成していく。	A
主体的に学習に取り組む態度	全国学力・学習状況調査では、「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。」の質問項目において、肯定的な回答が、90%には届かなかった。しかし、4月の全国調査と1月の市調査の結果を比較すると、肯定的な回答が、4.6pt上昇していた。	A

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

② 全国学力・学習状況調査結果・分析	
知識・技能	R5全国学力・学習状況調査の「知識・技能」において、本市の結果と比較し、国語+7.5pt、数学+8pt、英語+11.3ptであった。特に、国語は、いずれの設問においても、高い正答率を示し、指導の成果が伺える。一方、各教科において、本市の正答率が低い設問(5割未満)において、市の平均は上回るものの本校でも正答率が低くなっており、課題と考えられるものがあった。今後は、課題と考えられる設問について、校内で共有し、指導の改善に活かしていく。
思考・判断・表現	R5全国学力・学習状況調査の「思考・判断・表現」において、本市の結果と比較し、国語+7pt、数学+10.9pt、英語+7.7ptであった。本校は、いずれの設問においても、本市の結果と比較し正答率が高い傾向が伺える。一方、「思考・判断・表現」における「記述式」の設問については、いずれの教科においても、無解答率が高い傾向にあり、課題がみられる。自らの考えを表現する際には、あらかじめ何も書かないのではなく、途中まででも自分なりの考えを表現する「やり抜く力」を高められるよう、普段の授業から指導していく。
主体的に学習に取り組む態度	R5全国学力・学習状況調査において「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問項目において、肯定的な回答の割合は85%を超えたものの、目標値の90%は達成できなかった。ただし、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善に関する取組状況に関わる設問の中では、「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか。」の質問項目における肯定的な回答が、他の質問に比べ高かった。今後は、目標達成に向けて、課題について個人でじっくり考える機会や時間を充実させることができるよう、授業改善に努めていく。

- ①結果分析(管理職・学年主任等)
- ②詳細分析(学年・教科担当)
- ③分析共有(児童生徒の実態把握)

④ さいたま市学習状況調査結果・分析	
※令和5年度のさいたま市学習状況調査結果は参考値扱いとなります。	
中1	令和5年度さいたま市学習状況調査において、市の結果と比較して、全ての教科の「知識・技能」「思考・判断・表現」で平均を上回ることができた。教科によっては、10pt以上上回るものもあり、指導と生徒の努力の成果が伺える。一方、設問別に正答率をみると市の平均を下回る問題がや、教科によっては市の平均との差が小さいものがある。各教科で調査結果を分析し、指導の工夫・改善を進めていく。「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか。」の項目において、肯定的な回答が83.2%であり、市を2.4pt上回った。
中2	令和5年度さいたま市学習状況調査において、市の結果と比較して、全ての教科の「知識・技能」「思考・判断・表現」で平均を上回ることができた。教科によっては、10pt以上上回るものもあり、指導と生徒の努力の成果が伺える。一方、設問別に正答率をみると市の平均を下回る問題がや、教科によっては市の平均との差が小さいものがある。各教科で調査結果を分析し、指導の工夫・改善を進めていく。「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか。」の項目において、肯定的な回答が83.7%であり、市を3.6pt上回った。
中3	「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか。」「これまでの授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。」の項目において、肯定的な回答がどちらも約86%であった。昨年度とほぼ同様の数値であり、主体的に学習に取り組む様子がみられる。

③ 中間期見直し(全国学力・学習状況調査結果分析後)		
	目標	策
知識・技能	変更なし	⇒
思考・判断・表現	変更なし	⇒
主体的に学習に取り組む態度	変更なし	⇒